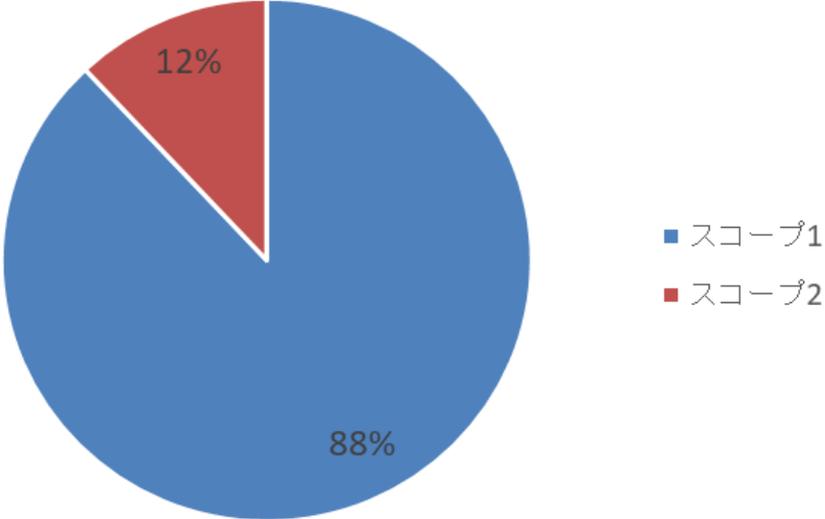


三和興産株式会社

項目	内容
1.企業情報	<ul style="list-style-type: none">● 業種：製造業（石油・石炭製品）、建設業● 事業概要：道路資材で使用するアスファルト合材（舗装材料）の製造、販売、リサイクル、建設業、建築、解体、土木工事業、木材のリサイクル、チップの製造・販売、製紙材料の製造・販売● 事業規模：資本金4,500百万、従業員数32名
2.削減目標案	<p><Scope 1・2の削減目標と削減に向けた取り組み> 目標2030年に2017年比で約54.6%削減 取り組みとして、まずはプラント設備の省エネ化検討（特に重油使用の設備）、次にプラント全体においてエネルギーマネジメントシステムの導入を検討</p> <p><Scope 3の削減目標と削減に向けた取り組み> 自社のサプライチェーン排出量削減に向けた取り組み案として、自社が販売するリサイクル製品の原材料使用量（バージン材及びリサイクル材）等の比較によるCO2排出量の算定・CO2削減量（削減貢献量）の見える化を継続的に行う。</p>

三和興産株式会社

項目	内容							
3.基準年のGHGインベントリ[数値は任意]	<ul style="list-style-type: none">● Scope 1・2・3の排出量の状況  <table border="1"><caption>GHG Emissions Distribution</caption><thead><tr><th>Scope</th><th>Percentage</th></tr></thead><tbody><tr><td>スコープ1</td><td>88%</td></tr><tr><td>スコープ2</td><td>12%</td></tr></tbody></table>	Scope	Percentage	スコープ1	88%	スコープ2	12%	<ul style="list-style-type: none">● SCOPE1 : 1,659 [tCO2]
		Scope	Percentage					
		スコープ1	88%					
スコープ2	12%							
<ul style="list-style-type: none">● SCOPE2 : 226 [tCO2]								
<ul style="list-style-type: none">● SCOPE3 : [tCO2]								

三和興産株式会社

項目	内容
4.気候変動によるリスクと機会の分析	<ul style="list-style-type: none">● 当社はアスファルト合材製造～舗装施工～リサイクルまで一環したサービスを提供している。世界的に気候変動への取組みが求められる中で、特に新興国などにおいてこのようなビジネスモデルの価値が高まる可能性がある。● 当社は老朽化したアスファルトや解体現場などから回収した木材をリサイクルし再資源として販売するが、当社のそうした製品の使用によるCO2削減量（削減貢献量）を見える化することで、他社製品との差別化が図れ、新しいビジネスチャンスに繋がる可能性がある。● また、会社として環境への取組みをアピールすることで、環境への関心が高い若い人材確保に有利となると考えられる。
5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など	<ul style="list-style-type: none">● 環境負荷を可視化し、会社の経営計画に負荷低減を織り込み取組みたい。● 当社はアスファルトのリサイクル事業等を通し資源循環へ貢献しているが、その貢献度を数値化したい。● CO2排出量の削減目標設定により社内に共通認識として浸透させたい。

三和興産株式会社

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	<ul style="list-style-type: none">● 本事業によりScope1,2の把握、SBT水準での目標を設定した。● まずは朝礼や会議などを通し各職場のリーダーに伝え、社内での共通認識としていきたい。また委員会活動等で継続的な活動を図る。● 当社の事業は資源リサイクルであり、環境への取組みは事業と直結することを社員に理解してもらえるよう説明していく。
7.今後の課題	<ul style="list-style-type: none">● 設備更新にも再エネ電力の調達にも資金調達が課題となる。設備更新については、補助金などの情報収集を行っていく。また、再エネ電力については、より低価格な再エネメニューが販売される可能性が高いため引き続き情報収集を行っていく。